

研究タイトル：**新自由主義下における文学のユートピア的観点からの研究**



氏名：	森下 二郎 / Jiro Morishita	E-mail：	morishita-j@t.kagawa-nct.ac.jp
職名：	講師	学位：	教育学(修士)
所属学会・協会：	アメリカ学会、日本アメリカ文学会、早稲田大学英語英文学会		
キーワード：	現代アメリカ文学研究、ポストモダニズム、ユートピア、新自由主義、ゾンビ文学		
技術相談 提供可能技術：	<ul style="list-style-type: none"> <li>・</li> <li>・</li> <li>・</li> </ul>		

研究内容： **ゾンビ文学の生政治的観点からの研究**

1970年代後半より特に先進国において支配的イデオロギーである新自由主義を軸に、その政治・経済の枠組みがどのように人や社会に影響を与えているか、また人や社会がどのようにこの資本家による大革命に対して反応しているかを、主に2000年代以降のアメリカ文学を分析することを通じ研究している。特に2008年のリーマン・ショック以降、社会的にも新自由主義の限界は感じられており、新自由主義が推し進める「経済を中心にした社会運営」は実は非常に脆いもので、社会そのものを根底から破壊するのではという恐怖は、2010年代前半のポスト・アポカリプス小説の人氣が象徴するところでもあり、2020年からのコロナパンデミックによって現実のものとなった。ポスト・アポカリプスというジャンルに依拠せずとも、新自由主義がもたらした労働者階級に蔓延する、希望ある未来が想像できないことに起因する「どんよりとした空気感」や、登場人物による新自由主義ではないより良い社会の希求(ユートピア)という形を通じて、この時代の文学は新自由主義を強く批判している。

最近では、私はゾンビ文学に強い可能性を感じており、この分野の研究に力を注いでいる。それは、ゾンビはその歴史的背景にもあるように、資本主義によって搾取され、排除された主体であり、資本主義的傾向が全面に出ている新自由主義社会において「他者」をもの見事に表象しているからだ。さらに、ゾンビは常に「人」と対照的に描かれており、そこに人種や性の違いにおける差別はない。つまりその「人对ゾンビ」という二項対立は、新自由主義の非人道性を指摘するだけでなく、この社会における一番の差別は階級であると前景化させることで、ビル・クリントン、バラク・オバマ、ヒラリー・クリントン、そしてジョー・バイデンらが代表する新左翼がおしすすめる人種、ジェンダー、セクシュアリティの不公正さばかりに固執する政治は、革新的(支配階級によって抑圧されている人を助ける政治)ではなく、新自由主義下における真かつ唯一の差別問題である階級から目を逸らせるという点で保守的(支配階級に迎合する政治)であるということ指摘する。このゾンビ文学研究が、現代における革新的政治を再考し、新自由主義を超えたより良い社会の実現に向けての契機となれば、と思っている。

提供可能な設備・機器：

名称・型番(メーカー)	